



碓東小通信 培根



宍中市立碓東小学校

令和6年6月24日

NO.5 文責：ホロ

JRC・ユネスコスクール 流水池記念日集会

6月12日(水)の朝行事で恒例の「流水池記念日集会」がありました。ただ、今年から集会名を「JRC・ユネスコスクール流水池記念日集会」と変えて実施し、主体的に流水池に関わるための意識改革をねらいました。

校長の話、講師代表による講話の後、環境安全委員の子供たちが、流水池の歴史・設備・植物・生き物・ルールについて発表しました。明瞭にしっかり話す事ができ、講師の皆様からも褒めいただきました。

流水池は今年で完成から23年、当時は本校の小学生たちも小川となる場所を掘ったり、植樹をしたりして、地域の大人・学校の職員と力を合わせて造ったという講話を聞き、羨ましく感じました。当時の子供たちは、20年後のこの場所がどんな場所に育っているだろうとワクワクしながら活動したはずです。夢を語り合っていたはずです。

23年経って、流水池は様々な植物が共存し合う林と魚や貝の棲む小川をもつ「里山」になりました。当時子供たちが作詞し先生が作曲した「碓東流水池ソング」もずっと歌い継がれています。これはすごいことです。当時の子供たちが描いた流水池が23年たった今、夢の通りに存在し、進化し続けているのですから。

しかしながら、昨年1年間碓東小の子供たちと流水池の関わりを見てきて、この流水池の維持管理のほとんど全てをこの流水池を造った地域のボランティア団体「いきものふれあいの里推進協議会」の皆様が担い、子供たちは使わせてもらっているだけという現実気付きました。

講話の中で講師から「流水池を造ったのは、子供たちに里山で遊んでほしかったからです。昔は里山の手入れがされていたけれど、次第にされなくなり、子供たちは「里山」に入ることができなくなりました。人の入らない里山はさらに荒れ、それが最近の獣被害を招いています。また、私たちは、昔はどこの小川にもいた生き物で「安中メダカ」のように自然界からは絶滅してしまった種やアサギマダラの来る「フジバカマ」のように絶滅危惧種となっている生物も保護しています。みんなの身近な生き物たちは人間たちが自然を壊したせいで次第になくなってしまっているのです」というお話も聞きました。

これらを聴いて、子供たちはどう思ったのでしょうか？このことが今危機に瀕している自分たちの未来につながっていることに気付いた子はいたのでしょうか？

先日、ある著名な方のインタビュー記事に、「子供たちに『明るい未来が待っている』などと語る言葉をよく聞くが、このままでは決して明るい未来にはならないというのが現実である。だからこそ子供たちには現実の課題をきちんと知らせ、それを自分事として真剣に考えさせなければなりません。夢などもてない未来が迫っているのに、大人が濁して手遅れにしてもよいのか。」という言葉があり、集会での講話と重なってはっとしました。

講師の先生は、集会の最後に「みんなには流水池という里山で、里山をきれいにする勉強をして、いつか里山を守れる大人になってほしい。そうしてくれることをうんと期待しています。今日はその勉強のスタートの日です。」とおっしゃいました。

私たちは現実をもっと知らなくてははいけません。そして、手遅れになる前に動き、さらに自分で気付いて動ける人を育てていかななくてはなりません。

今回の集会から、教師として一人の大人として大きな課題を突きつけられた気がしました。



お知らせ

○学校だよりNo.4の訂正

個人情報保護の観点から掲載を控えます。

○保護者の皆様、流水池サポーターになりませんか？！

「子供たちにバトンをつなぐために親世代の方のご協力を求めます。活動メンバーとして活動内容は流水池の整備です。年7回ほどありますが、全部出られなくても大丈夫です。子供たちと一緒に地域住民として碓東流水池を守る側として活動してみませんか？詳しく知りたい方は学校までお問い合わせください。（特に子供の頃碓東流水池を体験した方は、積極的なご参加をお願いいたします。）」【いきものふれ合いの里推進協議会より】

みんな大好き！読み聞かせ

コロナ禍でいったん休止となっていた読み聞かせが昨年度より復活し、子供たちの楽しみの一つとなっています。

先日6月14日は、3、4年生が地域ボランティアの皆様から読み聞かせをしていただきました。

3の1は『ふしぎなナイフ』『ねこガム』『かえるをのんだととさん』『串かつやよしこさん』、4の1は『じごくのそうべい』『つつじのおすすめ』、4の2は『トラのじゅうたんになりたかったトラ』『いちにちおばけ』『かえるとカレーライス』『ぱぱんがパン!』を読んでいただきました。

3つの学級をのぞいてみると、子供たちはリラックスしながらもだだ寝転んでいるような子は一人もおらず、読み聞かせてもらっている本の世界に引き込まれ、「えー!!」「おもしろーい」などと驚いたりつぶやいたりしながら楽しんでいました。

どうしたら読書好きの子を育てられるかとこれまでいろいろ教育書なども読んできましたが、幼いときからの「読み聞かせ」や学校での「朝の10分間読書」「すき間時間読書」をじっと継続していくことがどうやら有効らしいです。

私自身は子育ての中での寝る前の読み聞かせが、子供との温かな思い出の一つです。今でも我が子は「○○という本の△△という登場人物が好き。お母さんがそれになりきって言った登場人物のあの台詞は今でも笑える」と懐かしそうに話すときがあります。

子供たちの「やわらかな心」を親や地域の大人や教師たち皆で育てていきたいですね。



個人情報保護の観点から掲載を控えます。